

平成 22 年度東北区水産研究所運営会議報告書

日時：平成 23 年 2 月 25 日 13:15～17:15

場所：東北区水産研究所 会議室

議事次第と出席者名簿：別紙 1 と 2 のとおり

議事：

1. 東北区水産研究所の諸活動の概要について

所長が、平成 22 年度の運営（体制・予算・研究・技術普及・地域連携・広報・国際交流）の経過を報告した。

2. 資源・海洋・増養殖・サケ増殖技術普及、各担当部署の運営について

八戸支所長（資源分野担当）、混合域海洋環境部長（海洋分野担当）、海区水産業研究部長（増養殖分野担当）が、担当している主な研究課題の背景・目的・成果の概要、及び平成 22 年度の特記すべき活動等について説明した。なお、各分野の特記すべき活動事項の内容は次のとおりであった。

資源分野：平成 22 年度のサンマ漁の不漁に関する調査・研究

海洋分野：沿岸水温速報システムの利活用

増養殖分野：平成 22 年度の猛暑とその沿岸漁業への影響

三陸リアス式海岸における放流後のサケ幼稚魚の誘引保育放流技術の開発

最後に、調査普及課長がサケ増殖技術の指導・普及活動の現状を報告した。また、平成 22 年度の沿岸サケの不漁に関する水研センターの見解を紹介した。

3. 広報活動について

業務推進課長が、平成 21 年度に実施した東北水研ホームページ（HP）の改造後の、アクセス状況の変化、平成 22 年度の出前講座や一般公開等の広報活動の経過を報告した。

4. 外部委員による講評

議事 1～3 における質疑応答の中で、次のような意見が寄せられた。

- (1) 漁業資源の研究を一般人に説明する時は、用いる専門用語の数を少なくし、かつそれらの用語について簡潔・明瞭な定義を示して欲しい。また、研究者が自信を持って説明すればするほど、漁業の不確実性について身をもって体感している漁業者には嘘っぽく聞こえる。もっと謙虚な表現を心がけないと、漁業者と研究者の距離は縮まらない。漁獲が少ないこと（多いこと）と、漁業資源が少ないこと（多いこと）が、いつも並行しているわけではない。
- (2) 漁業者にとって漁業資源は漁場に存在する魚のこと。したがって、漁場の外の資源の

ことより、漁場内の魚の方に関心がある。たとえば、サンマについては片道1日～1日半で到達できる海域が日本漁船の漁場である。

- (3) 海洋分野が研究対象としている北西太平洋における生物的ホットスポットの状態を、生態学的に継続してモニタリングしてはどうか。
- (4) 海洋分野は、日本沿岸域の生物生産力の変動と漁業資源の動態を関連付けて研究を進めて欲しい。
- (5) 海藻が生息できる水深帯を含めた沿岸域の海水温のモニタリングを実施してはどうか。
(我が国の) 海藻群落相は近年、大きく変化した。海水温の変化が影響しているかも知れない。
- (6) シロサケ増殖については、環境収容力を上回る量の種苗が放流されているために成長が劣り回帰率が低下しているとも考えられる。海獣による捕食も無視できない。これらのことも併せて検討すべきではないのか。
- (7) シロサケ稚魚にノナデカン酸を混入させた餌を与えて、体脂肪にそれを取り込ませて生物標識とするとするアイデアは斬新である。積極的に宣伝してはどうか。
- (8) シロサケの母川回帰性は100%ではないと聞いている。海洋環境の変化により母川回帰性が低下してしまう可能性を調べてはどうか。産卵親魚の回帰率低下の原因となっているかも知れない。
- (9) 国益を守る観点で、水研センターの調査データが国内外に漏出しないよう気を付けて欲しい。水研センターの職員が、親切心で外国人に気安くリークしてしまうこともあると思われる。
- (10) 東北水研の知名度を上げるため、一般市民対象の講演会を1回開催してみてもどうか。学校教育への協力という形でもよいのではないのか。

最後に外部委員から次のような総括的講評をいただいた。

- (1) 研究成果を水産業の生産現場に役立つ形にして伝えて欲しい。その際、生産者が理解できる言葉で表現してもらうことが大切である。その意味で、広報活動にも力を注いで欲しい。広報に当たり、魚市場関係者は積極的な協力を惜しまないつもりだ。(須能委員)
 - (2) 県との協力関係をこれまでどおり維持してもらいたい。(武田委員)
 - (3) 水研は水産業の発展を出口とした研究を実施すべき機関である。東北水研はその意味で研究のアクティビティが高い。資源分野についてはサンマの自然死亡係数を予測できるようにするくらいの意気込みで研究を進めて欲しい。海洋分野については、リアルタイムの沿岸水温速報事業をもっと宣伝し、ユーザーを増やす努力をして欲しい。増養殖分野については、沿岸漁業活性化のための研究開発の方向性を支持したい。広報については、一般市民を対象とした活動にもっと工夫があって良いと思われた
5. その他
特になし

(別紙1)

平成22年度東北区水産研究所運営会議
議事次第

日時：平成23年2月25日(金) 13:15-17:15

場所：東北区水産研究所塩釜庁舎

〒985-0001 塩釜市新浜町3-27-5 電話：022-365-1191(代表)

1. 開会宣言
2. 主催者挨拶
3. 会議参加者の紹介と資料の確認
4. 座長選出
5. 議事
 - (1) 東北区水産研究所の諸活動の概要について
 - (2) 資源・海洋・増養殖・サケ増殖技術普及、各担当部署の運営について
 - (3) 広報活動について
 - (4) 外部委員による講評
 - (5) その他
6. 閉会宣言

平成22年度東北区水産研究所運営会議 構成者名簿

	氏名	所属と役職名
外部委員	吾妻 行雄	東北大学 大学院農学研究科 教授
	武田 功	宮城県水産技術総合センター 所長
	須能 邦雄	石巻魚市場株式会社 代表取締役社長
独立行政法人 水産総合研究センター	石田 行正	東北区水産研究所 所長
	鈴木 満平	東北区水産研究所 業務推進部長
	山田 陽巳	東北区水産研究所 八戸支所長
	横内 克巳	東北区水産研究所 混合域海洋環境部長
	有元 操	東北区水産研究所 海区水産業研究部長
	本間 盛一	東北区水産研究所 若鷹丸 船長
	藤瀬 雅秀	東北区水産研究所 調査普及課長
	安達 宏泰	東北区水産研究所 業務推進課長
	相澤 幹夫	東北区水産研究所 業務管理課長